

おわりに

副校長 今 崎 良 治

平成7年度より『生活を楽しむ子』のテーマで取り組み、平成9年度に実践発表をして研究の一区切りをつけました。その後その研究を一層深め、今年度『生活を楽しむ授業づくり』と題した本を初めて刊行し、今回、研究の結果を『研究紀要第18集』としてまとめました。

小学部では、～自分ていいな、友だちっていいな、何でもチャレンジ～の心を育てようを目標に、子どもとともに教師自身も楽しんで、子どもたちのことを多く語ってきました。そして昨年度までの実践を大切にしながら「生活を楽しむ」の原点にかえて取り組みました。本年度6月の全体研究会では、ポンポンホッケーの取り組みにおいて、Y君の例を取り上げて、個別の指導計画と授業のつながり等について考えました。ひとりひとりの児童を理解し、次の授業に生かすことで、学校が大好きな子どもたちが育ってきたように思います。

中学部では、～見つけよう、広げよう、深めよう～を目標に、自分の思いが生かされ、充実した楽しい生活を過ごす中で、自分から楽しさを求め、意欲的に生活する力を育てることが、将来の豊かな人生につながると考えました。本年度10月の全体研究会では、「やったねタイム」の取り組みを取り上げ、ポスターセッションにより話し合いを深めました。自らの課題を見つけ、毎日の「やったねタイム」で計画的に取り組むことで、生活に役立つ力をつけてまいりました。

高等部では、～思いを広げ、喜びを見つけ、自分の足で歩こうよ～を目標に、3年後を見据えて、家庭との連携を大切にしながら、家族と連携した学習を多く取り入れたり、小グループでの活動を大切に、それぞれの校外学習地や役割分担などを自分たちで決めたりして、互いに協力して学習を進めました。そして3年生になると、社会参加も近いということもあり、自分の力で生活することを意識した校外学習を取り入れました。そのことで、休日には一人で余暇を楽しんでいる生徒も増えてきました。本年度7月の全体研究会では、各学年の取り組み実践報告をもとに、事業所・施設・作業所の代表の方によるパネルディスカッションを取り入れ、将来『生活を楽しむ』には、何が必要なのか協議をいたしました。

各学部の取り組みが、共に楽しく、豊かな生活に向けて一步を踏み出した実践となったであろうか。今後、更に子どもたちの幸せを求めていくには、家庭、関係者、地域、社会との連携を深めて行く必要があります。そのためにも、皆様からのご指導、ご助言を頂き、共に歩んでいきたいと考えています。

最後に、本研究をご指導頂いている、鳥取大学教育地域科学部の渡部昭男先生を始め、小枝達也先生、寺川志奈子先生、戸田有一先生、井戸垣直美先生他多数の先生方、並びに関係各位に厚く感謝の意を表するとともに、この研究がより深まり、実りあるものとなるよう、引き続きご指導ご助言賜るよう、お願いする次第であります。